令和８年度　Ｎｏ．１８

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和８年１０月２７日（火）

令和８年１０月２７日(火)付南日本新聞にみらい留学生・町長対談の記事が掲載されましたので、紹介します。

「農業分野学びたい」

みらい留学生・町長が対談

さつま



上野俊市町長と対談した小川和真さん（左から２人目）と宮﨑健太さん（同３人目）＝さつま町役場

地域みらい留学生としてさつま町の薩摩中央高校で学ぶ1年の小川和真さん（大阪府出身）、宮﨑健太さん（茨城県出身）が上野俊市町長と対談した。２人は学校生活や町の印象などを話し、上野町長は「チャレンジ精神を持って」と励ました。

町は今春から地域みらい留学による生徒受け入れを始めた。小川さんと宮﨑さんは農業に関心があり、寮生活を送りながら生物生産科で学んでいる。地元と留学生のつながりを深めようと、町の地域おこし協力隊が対談を企画し、16日にあった。

小川さんは「虫の音が聞こえたり、星空が広がったりと、大阪では経験しない趣がある」と、豊かな自然に満足した様子。宮﨑さんは「いろんな人からあいさつされる。明るい雰囲気で生活していて楽しい」と話す。２人は町の基幹産業である農業分野をいろいろ学びたいと意欲を示した。

小川さんは生徒会長、宮﨑さんは生徒会役員も務める。積極的な２人の姿勢に上野町長は「新しい風を学校に吹き込んでいる。人付き合い、ものづくりにどん欲に取り組んでほしい」と声援を送った。

（中島裕二郎）